

H25 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ密度操作実験(2年目)案

1. H25 シカ年度 捕獲事業内容案 (ルサー相泊地区)

- ・H25 シカ年度は囲いわなと流し猟式 SS を併用した捕獲を基本とし、ルサー相泊地区のシカの低密度化を図る。
- ・ルサ周辺では、ルサ川沿いに設置した囲いわな等によりシカの生息密度が低下したが、相泊周辺は依然として密度が高い。そのため、相泊周辺のシカの密度を低下させるため、相泊地区に囲いわな 1 基を新規設置する。
- ・3 年続けて捕獲を行ったルサ川左岸の囲いわなは、捕獲数が減少したが、低密度状態維持のため再設置して稼働させる。
- ・流し猟式 SS による道路沿いでの捕獲は、1 月から実施するが、道路法面にシカが集まる 3～4 月を重点実施期間とする。

1-1. 囲いわなによる捕獲 (再設置 1・新設 1)

- 期間： 11 月ワナ設置、12 月馴致・餌づけ誘引開始。12 月下旬～3 月末まで捕獲。
- 実施候補地： ルサ川左岸(再設置)、アイドマリ川河口付近 (新設)。
- 検討事項： 希少猛禽類関係者との調整、部外者による攪乱・事故の防止(いずれも自動落下式ゲート使用の可否に関係する)、通行止め時の対応(相泊)。
- 捕獲目標頭数： ルサ約 20 頭 (H24 シカ年度実績)、相泊約 100 頭。
- 捕獲物処理： 生体で譲渡し、有効活用。

1-2. 流し猟式 SS

- 期間： 12 月から餌づけ開始。1 月上旬～4 月末に週 1 回程度の捕獲を実施。
- 実施候補地： 道道知床公園羅臼線沿い(北浜～相泊:H24 シカ年度と同様)。
- 検討事項： 2～3 月に道道が通行止めになるか。通行止め時には、雪崩対策装備をし、餌付けのみ実施を道路管理者と交渉。通行止め時の対応。
- 捕獲目標頭数： 約 100 頭。
- 捕獲物処理： 有効活用。

※捕獲目標頭数合計： 220 頭

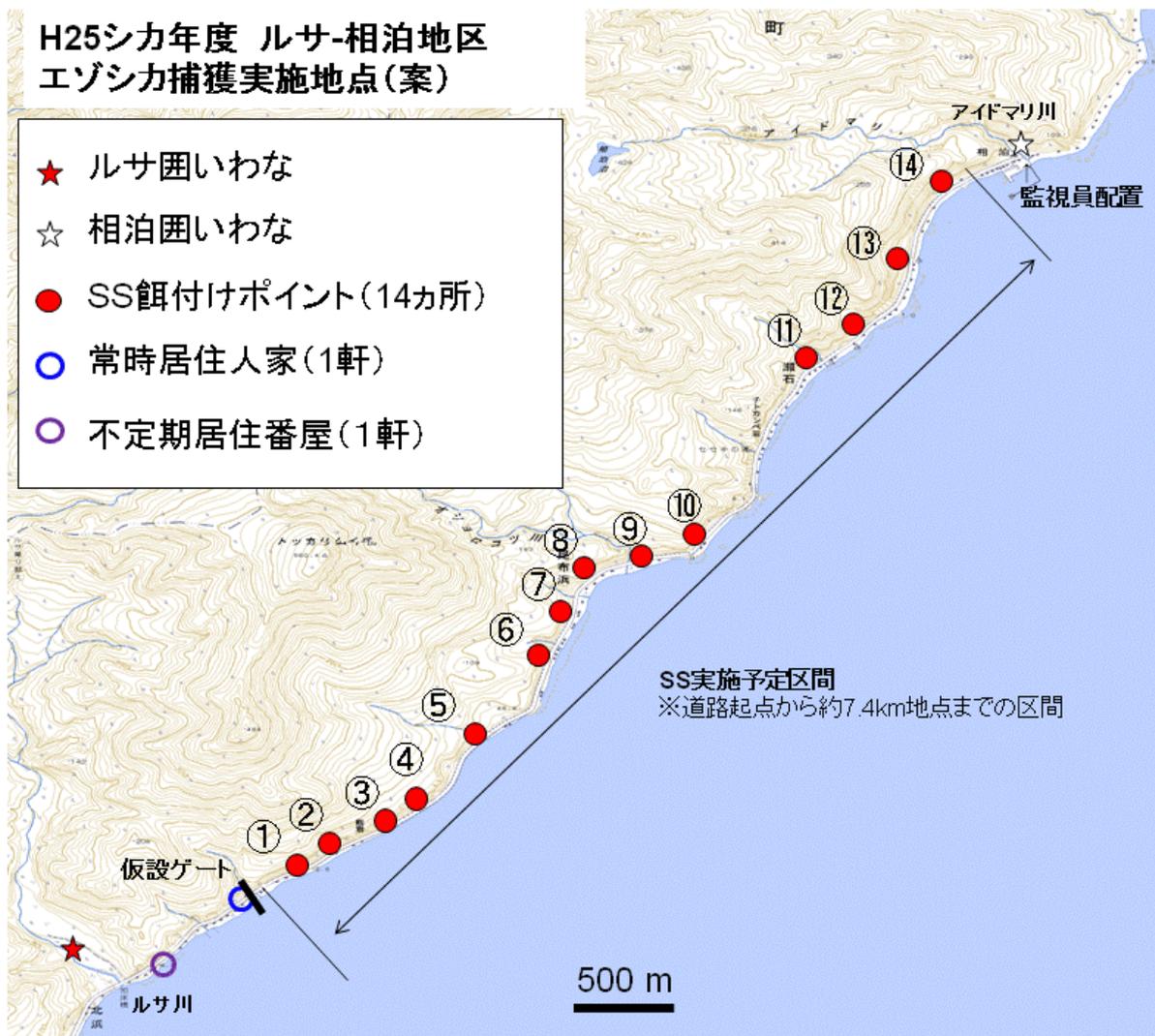


図 1-3-1. ルサー相泊地区における H25 シカ年度のエゾシカ捕獲事業実施予定地点

表 1-3-1. 平成 25 シカ年度のルサー相泊地区におけるエゾシカ密度操作事業（案）

	手法	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
		搬出・処理法に関する有効活用業者との交渉 ⇔ スポットライトセンサス（秋期集中）	*シカ季節移動			← 積雪十分に	← シカ 道路法面に集中		*シカ季節移動
			⇔	← ルサー FH 冬期閉館	⇔	← 流氷期	← 猛禽繁殖期	⇔	⇔ スポットライトセンサス（春期集中）
実施手法案	1. 罠いワナ (アイドマリ川河口 新設) (ルサー川左岸 再設置)	設計、自動落下式ゲートの設置検討	⇔ ワナ設置工事	⇔ 馴致・餌付け期間 餌付け + 捕獲	⇔ 餌付け + 捕獲	⇔ 餌付け + 捕獲	⇔ 餌付け+捕獲	⇔ アイドマリ川河口のワナは解体	
	2. 流し猟式SS (北浜-相泊)	←.....→ 路上発砲の関係機関交渉	⇔ 射撃訓練など	⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲(道道知床公園羅臼線) 週1回程度捕獲				